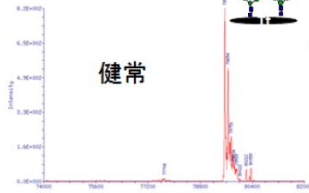


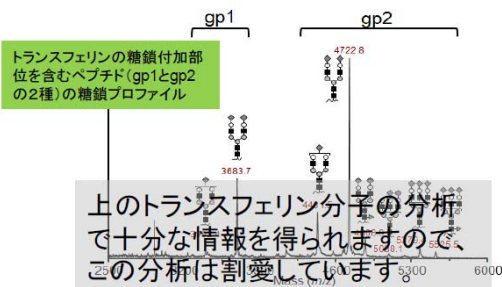
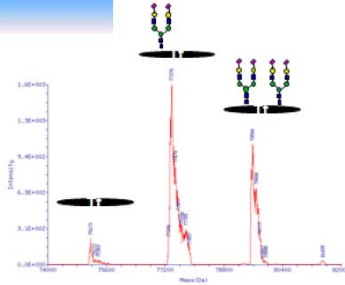
分析結果の見方(解説)

トランスフェリン分子の全体像



健常

CDG-IではN型糖鎖の欠失を示す分子量の小さい分子が検出されます。



トランスフェリンの糖鎖付加部位を含むペプチド(gp1とgp2の2種)の糖鎖プロファイル

上のトランスフェリン分子の分析で十分な情報を得られますので、この分析は割愛しています

糖鎖構造の詳細(プロファイル)がわかるのでCDG-IIIに分類されるいくつかの病型を診断できます。等電点電気泳動法よりも情報が豊富です。

■ N-アセチルグルコサミン; ○ マンノース; ◊ ガラクトース
◆ N-アセチルイラミン酸(シアル酸); ▶ フコース

